

平成 22 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19530762

研究課題名(和文) グローバル市民性教育

研究課題名(英文) Global citizenship education

研究代表者

Lynne Parmenter (Parmenter Lynne Kaye)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：10312761

研究成果の概要(和文): 本研究プロジェクトの主たる目的は、グローバル市民性教育に関する基本的概念を検討し明らかにした上で、理論的枠組みを検討し確立することである。その目的は、本研究プロジェクトの3年間におよぶ研究期間の中で、理論的かつ実証的な研究を実施することによって達成された。本研究プロジェクトの代表者は、単独で2009年10月に「グローバル市民性教育の理論的枠組みに関する本」を出版する契約を、センス出版(Sense Publishers)との間で交わした。現在は本研究プロジェクトの成果を基に、その本の内容を執筆中であり、2011年にはその本が出版される予定である。

研究成果の概要(英文): The aim of this project was to develop a theoretical framework and conceptual basis for global citizenship education. This was done through theoretical and empirical research. The project aim was achieved within the 3-year time frame, and a contract for a monograph on this theoretical framework was signed with Sense Publishers in October 2009, to be published in 2011.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育社会学(4002)

キーワード：global citizenship; citizenship education; global education; comparative education; 地球市民, グローバル教育; シティズンシップ教育; 比較教育

## 1. 研究開始当初の背景

本研究プロジェクトは、2005年度及び2006年度の科学研究費補助金（若手B）の支援を受けて実施された「異文化間市民性教育の研究」の研究成果を理論的・実証的に発展させたものである。当初の2年間（2005、2006年度）に行なわれた研究の目的の一つは異文化間教育と市民性教育を結びつけることを検討することであったが、その目的は「グローバル市民性教育」という概念を導入することによって達成された。その2年間の研究プロジェクトに今回の3年間の研究プロジェクトを加えて「合計5年間」の研究プロジェクトを行なうことによって得られた成果は、グローバル化し、異文化間交流が盛んに行なわれるようになった現在の世界における自己(self)の存在を、理論的・実証的に概念化し、その概念化の過程に關与する教育政策と教育実践の役割の重要性を明らかにしたことである。

## 2. 研究の目的

2007年度から2009年度の3年間にわたって行なわれた「グローバル市民性教育」に関する研究プロジェクトの目的は、グローバル市民性教育のための理論的枠組みと概念的基盤を検討し構築することであった。これまでに行なわれた研究においては、多くの研究者がグローバル市民性に関連する理論について研究を積み重ねてきているが、それらの研究のほとんどが、主に欧米を中心とする極めて限られた国や地域の研究者によって実施されたものであるため、従来の研究の視点には、少なからぬかたよりがあると言ってよい。したがって、本研究のもう一つの重要な目的は、これまであまり研究の対象とされてこなかった国や地域の人々の視点をも研究の対象とすることによって、多様な視点から見た

グローバル市民性教育のあり方を検討することである。

## 3. 研究の方法

グローバル市民性教育に関する本研究プロジェクトにおいて研究上重要な鍵になる要素の一つは「大学生がもっているグローバル市民性の概念」に関する国際的調査であった。本研究プロジェクトでは、英語、中国語、日本語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語の8カ国語を用いて質問紙調査を実施した。なお、各言語による質問項目の作成にあたっては、まず英語で質問事項を作成し、それを英国の翻訳を専門とする会社に依頼し、8ヶ国の言語の質問項目を作成した。

調査対象者は23の国々の大学生で、最終的な調査対象者は、有効回答を答えた665名とした。調査期間は、2007年10月から2009年1月までであった。調査方法は2つの方法を用いた。1つは、紙に印刷した質問紙を配布して回答を求める方法で、もう1つは、インターネットを利用して、メールで質問紙を配布し、回答を求める方法であった。

前者については、調査を依頼した大学の教員に質問紙を送付し、現地の学生への質問紙の配布を依頼した。協力を依頼した教員には、学生による回答を回収したあとで、回答用紙を返信するように依頼した。後者については、様々な方法で多様な学生に回答への協力を求め、依頼に協力してくれることを承諾した学生に質問紙をイーメールで送付し、回答後に返信することを依頼した。

また本研究プロジェクトでは、そうした調査紙を用いた調査方法に加えて、半構造化された面接調査法とfocus group面接法を用いた調査も実施した。

そうした多用な方法で得られた調査結果

については、質的帰納的方法を用いて分析され、本研究プロジェクトの理論的研究で構築された理論的枠組みの妥当性を検証するために用いられた。

さらに、本研究プロジェクトでは、それらの研究方法に加えて、インターネット上に公開されている国家や州、または国際的組織（World Bank や UNESCO といった国際機関や Oxfam 等の NGO など）の教育政策やカリキュラム等に関する公文書を分析するという方法も採用され、それらの組織がグローバル市民性にいかなる知識、能力、態度、価値観を期待しているかが明らかにされた。

#### 4. 研究成果

本研究プロジェクトが本研究領域の知識や情報や視点の発展にどのような貢献をしたかについては、大きく 3 点にまとめることができるであろう。第 1 点目は、これまで提案されてきたグローバル市民性教育に関する理論を分析し整理した点にある。第 2 点目は、理論的実証的証拠に基づいてグローバル市民性教育の枠組みを構築したことにある。そして、第 3 点目は、世界的レベル、(多様な)国家的レベル、組織的レベルにおけるグローバル市民性教育の分析を通して、多様な視点から見たグローバル市民性教育の実態を解明し、解釈をほどこし、課題を明らかにした点にある。

それらの 3 つの成果については、本としてまとめることを計画し、2009 年 10 月には、センス出版 (Sense Publishers) との間で出版に関する契約を交わすことができた。題名は "My global self: Theories and policies of global citizenship education" (『私のグローバル・セルフ: グローバル市民性教育の理論と政策』) で、2011 年度中には出版されることになっている。

本研究プロジェクトによる研究成果の発表は、学術雑誌への投稿論文 1 報、著書 4 報 (共著: 3 報、単著 1 報)、学会における口頭発表 3 報、を通してすでに公表してきたが、さらに今後も本研究プロジェクトの成果に基づいた学術的発表の機会は増えるものと思われる。

しかしながら、本研究プロジェクトによって明らかにされたグローバル市民性教育に関する事実や視点は、これから明らかにされるべきことと比較すれば、まだほんのわずかであるということも事実である、まだ始まったばかりの本分野の問題点や課題については、まだ多くのことが未解決のままで残されているからである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

Parmenter, L. (2010, forthcoming) Power and place in the discourse of global citizenship education. *Globalisation, Societies and Education* (refereed)

[学会発表](計 3 件)

(1) Parmenter, L. (July 2009) Citizenship Education in Japan: An Analysis of the 2008 Courses of Study. 18th New Zealand Asian Studies Society International Conference, Victoria University, Wellington, New Zealand

(2) Parmenter, L. (June 2009) Globalising citizenship education and educating global citizens: aims and perspectives. 5th International Citizenship Education Conference, Hong Kong Institute of Education, Hong Kong, China

(3) Parmenter, L. (April 2007) Inclusive global citizenship education: potential and pitfalls. 3<sup>rd</sup> International Citizenship Education Conference, University of Sydney, Sydney, Australia

[図書](計 4 件)

(1) Parmenter, L. (2011, forthcoming)

*My global self: theories and policies of global citizenship education.*  
Rotterdam/Taipei: Sense Publishers

- (2) Parmenter, L. (2010, forthcoming)  
Becoming intercultural: A comparative analysis of national education policies. In Y. Tsai & S. Houghton (eds) *Becoming intercultural: inside and outside the classroom.* Newcastle: Cambridge Scholars Publishing
- (3) Parmenter, L. (2010, forthcoming)  
Global citizenship, cultural change and education policy in Japan and New Zealand. In W. Ascher & J. Heffron (eds) *Cultural Change and Persistence: New Perspectives on Development.* New York: Palgrave Macmillan
- (4) Parmenter, L., M. Mizuyama & K. Taniguchi (2008) Citizenship Education in Japan. In J. Arthur, I. Davies & C. Hahn (eds) *SAGE Handbook of Education for Citizenship and Democracy.* London: SAGE, pp.205-214

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

パーメンター リン ケイ

Parmenter Lynne Kaye

(早稲田大学・文学学院・教授)

研究者番号 : 10312761